

高橋 フジエ リポーター  
(芦田子)



市民リポーターを引き受けて

高橋 フジエ

### 住み良い大館を取り戻そう

のかもしれません。でも、そこには様々な人々が暮らしています。その人々が様々な問題を抱えているように、大館というまちが抱えている課題もたくさんあります。課題を解決していくためには、多くの人たちが力や知恵を出し合って取り組んでいく必要があると思います。

私は、この一年、大館が抱えている課題にはどんなことがあるのか、どうすればその課題が解決し大館が良くなるのかを考えてきました。そして、何か一つのこともよいから、大館が良くなる仕事や運動に参加していきたいと考えています。

芳賀 健史 リポーター  
(比内前田)



取材したことがたどり着く

一番感じたことは、皆さん考えていることが同じであったことです。それは、「大館市を住み良い、活気のあるまちにするにはどうしたらよいか」ということでした。しかし、私は単純にこうすればまちがもっと発展するのではと思っていてもリポートしてみると、商店、各事業所・団体、市役所等の考え方が同じではなく、互いに責任の転嫁をしているように思えたのです。これでは、若い人たちが住みたい、働きたいと思うまちになるまでまだ遠く感じられます。

私たち市民は各団体や市役所等だけに頼ってばかりいないで、私たちの立場でできることには協力していかなければならないところまできているのではないかと思います。

長岐 美弥子 リポーター  
(清水一丁目)



めることになったりして、自分

「この前、広報見たよ」と友人・知人から声を掛けられる度に、市民リポーターをやった良かった、原稿書きに頭を悩ましたことがあったと思いました。また、その記事が人との対話を重ねる切っ掛けになったり、親睦を深めることになったりして、自分

### 勉強のためにリポーターを

芳賀 健史

なりに喜んでいきます。

前任者から一回は農業関係、他は自由なテーマをとリポーターのバトンを受けましたが、二回とも農業関係に固執してしまい、農業の枠から抜け出せなかったのは残念でした。また、原稿の締め切り近くになってから取材準備にかかるのんびり屋の私は、バタバタと慌ただしい取材で、取材先の人に迷惑をかけたのではと反省しています。

ふだん何気なく通り過ぎていた大館市農協野菜集出荷所では、突っ込んだ話を聞くことができました。また、台風19号による果樹被災農家では、同じ農業を営みとしながらも、ジャンルの違いからふだん耳にしないことが聞けて斬新さを感じましたし、農業に対する深みが少し増したような気がします。

二回の取材はいずれも大変勉強になり、良い経験でしたし、広報ができるまでの過程も知ることができ、なかなか面白い一年でした。最後に、取材にご協力くださった皆様や関係者の皆様にお礼を申し上げます。

### リポーターになってみて

長岐 美弥子

知り合いの方に誘われ、自分の興味あることについて勉強させてもらえるというのでリポ

ターに申し込みました。広報担当者には取材の手配や資料集めをしていただくなどご迷惑をかけましたが、私一人ではできない貴重な経験をさせていただきました。

牛乳パックの回収と長木川について取材しましたが、環境問題に取り組むにあたって、様々な矛盾、生活の中で実行に移すことの難しさを改めて感じさせられました。市民活動の場での精神的に行動されている方にお会いして刺激を受けるとともに、何もできないでいる自分もどこかしくなることもありました。まさに「言うは易く行は難し」です。また、山や澄んだ川など自然に恵まれた大館に住み、仕事柄子供たちに接して感じることは、たとえ豊かな自然が残ったとしても、自然と本当の付き合いのできる人間がはぐくまれていなければ何の意味もないということでした。

私たちが小さかったころに比べて、あまりにも忙しい毎日を送っている子供たち。何かおかしなと感じるのは自分勝手な思い込みかもしれません。ふがない私でも、これから自分の子供を育てながら、自然とともに生きる本当の生活とはどういうことなのかを、山や川、生き物たち、様々な人々から学び続けていきたいと思います。